

サステナブル通信

No.27 2025年12月24日



作成：サステナブル推進委員会

1. 津波・高潮ステーション（大阪）訪問

【津波・高潮ステーションとは】（アクセス：大阪市西区江之子島2-1-64 大阪メトロ阿波座駅 徒歩2分）

「津波・高潮ステーション」は防潮堤や水門の津波・高潮防ぎよ施設の一元管理を行う「防災棟」と府民の防災意識の工場を目的とした「展示棟」を併せ持つ施設です。

「展示棟」においてかつて大阪を襲った高潮や、近い将来必ず来ると言われる南海トラフ巨大地震と津波についての知識と対応を学ぶことができます。

このような災害・防災について学ぶ施設は全国にありますので、是非、足を運んでみて下さい。

茨城県 7月に神栖市総合防災訓練を実施（神栖市役所主催） 千葉県 千葉県西部防災センター（松戸市）

埼玉県 埼玉防災学習センター（鴻巣市）

石川県 能美市防災センター 小松市民防災センター 白山野々市広域消防本部防災学習センター

福岡県 関門海峡ミュージアム内液状化通路浸水歩行体験 8月に「備える防災の日」を実施（北九州市主催）

起

海より低いまち大阪

- わたしたちの住むまちは海面より下にある
- 大阪府域の特徴

承

災害をのりこえ着実な高潮対策

- 忘れないで高潮災害の脅威
- 高潮防災施設のはたらき
- わたしたちのまちの水防団

転

高潮とは異なる津波の脅威

- 歴史の教訓を未来に活かす
- せまりくる津波とその対策
- ダイナキューブ
- 津波体感シアター -

結

津波災害から生命を守る知恵

- 学びのサロン
- 東日本大震災に関する展示

【今回の訪問の目的とその後の目標】

◎津波・高潮リスクを「自社の経営リスク」として具体的に理解。

- ・南海トラフ巨大地震による津波想定
- ・大阪湾沿岸部の高潮・浸水想定
- ・過去の被害事例や被災メカニズム

映像・模型・数値データで体系的に把握
→自社拠点・従業員・サプライチェーンがどう影響を受けるか

◎BCP・防災計画の前提条件の再確認

- ・浸水深、到達時間、二次災害（停電・交通遮断・孤立）という前提条件を再検証
- ・逃げ遅れの実例等から避難判断、空振りを恐れない初動対応の大切さを再認識。

◎社内訓練のレベルアップ

- ・「なぜ厳しいルールが必要か」ということを具体例を交えて説明し、社内訓練に活かせるようにする。防災は人命と事業を守るものである。

東海・東南海・南海地震の発生間隔

これまで、南海トラフで発生する巨大地震は、90年から150年の間隔で発生していたことが確認されています。しかも、3ヵ所の想定震源域で3つの地震が短期的に連動して起きることが多いという特徴があります。最後に東海地震が起きてからすでに150年以上が経過しており、そのためには明日起きても不思議ではないと言われています。



南海トラフ巨大地震の発生確率

平成25年1月1日を起点とする発生確率です。
(「地震調査研究推進本部」平成25年5月24日公表)

長期評価で予想した地震規模
(マグニチュード)M8~M9クラス

30年以内 60~70%
50年以内 90%程度以上